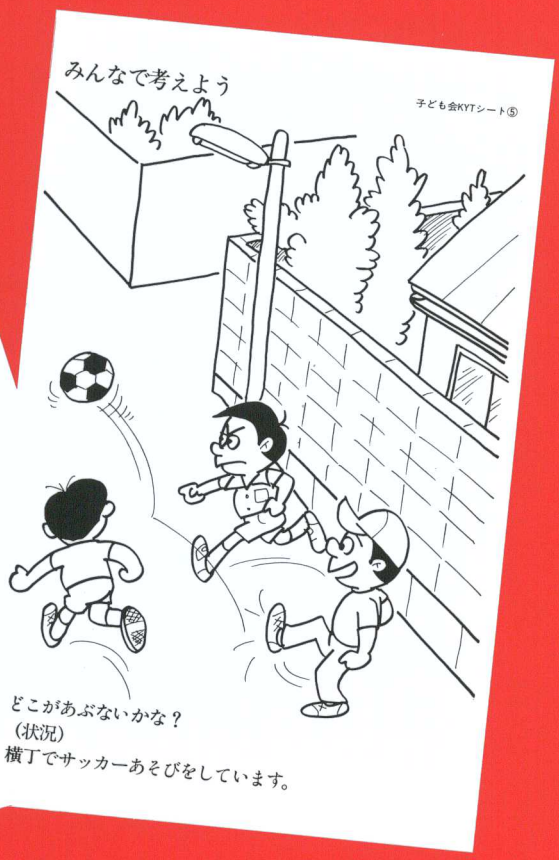
こうしてすすめよう！

子ども会KYT



公益社団法人　全国子ども会連合会

危険予知トレーニングのすすめ方

1．安全は危険の発見から

事故防止の第１歩は“危険”を予知することです。特に潜在的な危険を発見し，あらかじめ対策を立てておくことが“危険を回避”し安全確保につながる道でしょう。

しかし子どもは大人と異なり経験や知識が未熟ですから大人の想像外の行動をとることがしばしばあります。特に今の子どもは昔にくらべて，

(1) 生活経験や自主的集団活動の不足

(2) 生活習慣，生活技術の低下

(3) 子ども集団の伝承文化の欠落

などにより，安全能力つまり“危険予知”“危険回避”能力の点で問題があるように見受けられます。

2．KYT とは

キケンのK，ヨチのY，トレーニングのTをとって“危険予知訓練”の略称とし，産業界では中央労働災害防止協会の提唱により“ゼロ災害”を目標に具体的にすすめられている方法です。

(1) 全員参加でチームワークや感受性をたかめる。

(2) みんなで危険を発見し対策を考え合い，わかり合って実行する。

といったねらいで多くの職場で実践されています。

3．子ども会活動での活用

産業界で行われているKYTを研究してみると，興味のもてる視覚的なイラストシートを使用して，すぐれた効果を発揮している模様ですので，子ども会活動の安全教育にも十分活用できる要素をもっています。期待できる効果としては，

(1) 指導者が一方的に指示する“注意”でなく，子どもがそれぞれ自分の具体的な問題として考えやすい。

(2) ゲーム的要素があるので興味がわく。

(3) 興味のもてる方法なので“注意”をよくきいていないといった子どもが少なくなる。

(4) 注意力を喚起し危険予知・回避能力がたかまる。

(5) 具体的な小集団活動の促進とグループワークの実習になる。

(6) 話し合いが活発になる。

(7) 具体的な安全教育になる。

などが考えられます。

全国子ども会連合会では昭和60年から安全教育推進委員の研修会でとりあげ，各地で安全教育の一方法として普及されています。

4．KYT は 4 ステップで

準備 (1) イラストシート（グループ分）模造紙(各グループ 2 枚)，マジック（黒･赤）（黒板，白ボクでもよい）

(2) 1 グループを10名前後とする。

(3) **役割分担**　リーダー，記録を決める。

(4) **時間の配分**　各ステップ毎に何分かけるか，特に何項目程度出すかなどを決めておく。

(5) **トレーニングの趣旨の説明**　はじめて行う場合には，なぜ行うのかをわかりやすく説明する。

(6) **話し合いの進め方説明**　ブレーンストーミングの 4 原則を活用：①批判しない②質より量③自由に④他人のアイデアを加工してよい。

子どもにはわかりやすく①全員がどんどん発言②議論はしない，させない③気がついたことを遠慮なく発言するなど。

KYT の 4 ステップとは

第 1 ステップ　どんな危険がかくれているか……（危険の発見）

第 2 ステップ　これが危険のポイントだ……（特に重要なものは）

第 3 ステップ　私ならこうする……（具体的な対策をたてる）

第 4 ステップ　私たちはこうする……（みんなで実行する行動目標を決める）

5．KYT 4ステップのすすめ方

第1ステップ　「どんな危険がかくれているか」状況をつかむ

① リーダーがイラストシートを見せて状況を読み上げる。

② メンバーはその状況の中に自分をおいて，危険の要因を発見し「～して～になる」「～なので～になる」というようにどんどん発言する。

③ 記録係は模造紙または黒板に要点を箇条書にする。

④ リーダーは全員に発言をさせる。特に物の問題だけではなく人の行動の危険発見をうながす。

⑤ 時間内にできるだけ多く発見するように。

第2ステップ　「これが危険のポイントだ」重点をしぼる

① 模造紙に書き出された項目を順に読み上げて確認する。

② 特に「みんなの関心の高いもの，重大な事故の可能性のあるもの」に◎印をつける（2～3項目にしぼり込む）。

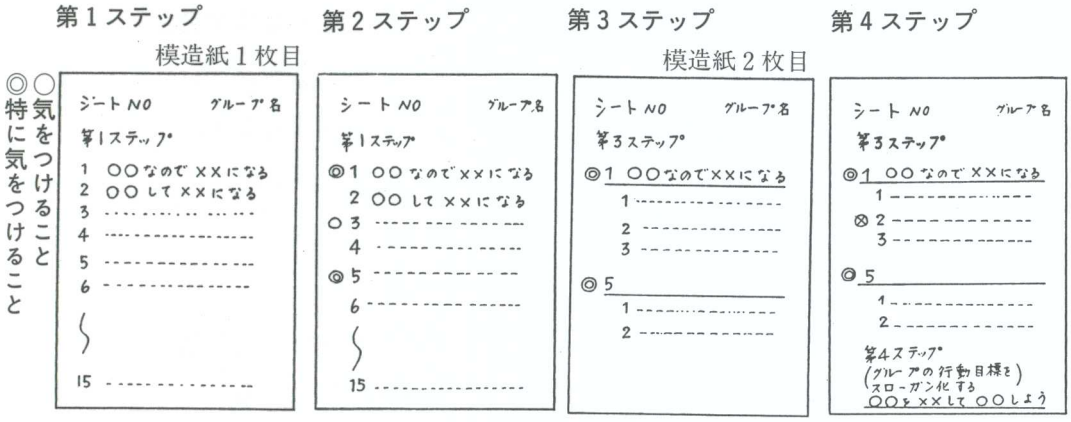
③ 全員起立して◎印項目を指差し「危険のポイント××，××，ヨシ！」と唱和する。

第3ステップ　「私ならこうする」対策を考える

① ◎印をつけた重要な危険要因として「予防したり防止したりするのに」一人ひとりがどうしたらよいか考えさせる。

② 「私ならこうしよう，こうすることが必要だ」と実行できる対策を出させる。

③ 一つの◎印に2～3の対策を考え，「グループとしてこうすべきだ」という共通の行動内容の対策を考える。



第４ステップ　「私たちはこうする」
実行の目標を確認する

① グループとして「必ずしなければならないこと」を重点項目として決め⊗印をつける。

② ⊗は１～２程度とし，その項目をスローガン化し行動目標とする。「～を～して～しよう」といった具合。

③ グループ目標を全員起立して指差唱和する。

以上が１回の手順ですが，初めのうちは大体１ステップ当り10分～15分を見ておきます。回を重ねるにしたがって時間を短縮していき，全体で20～30分で出来るようにするとよいでしょう。

６．子ども会での実践展開

(1) KYTシートを手づくりする

子ども会活動の中でいろいろな状況に合ったイラストシートを小グループ毎に話し合って作成するとよいでしょう。

① 自分の子ども会の状況に合ったものができる。

② 作成の過程で子どもたちの関心がたかまり，そのままよいグループ活動となると同時に，シート作成の活動そのものが安全教育になる。

③ あまり間違い探し的なクイズにしないよう注意，KY項目は１シート５項目程度がよい。

④ よいテーマを選ぶことがよいシートを作り，内容のあるKYTが進められる。

(2) くり返しが大切

集会や行事，班活動などの機会をとらえて，くり返しトレーニングすることが大切です。そこでグループや一人ひとりの感受性がたかめられます。

(3) 短時間でワイワイガヤガヤ

反復訓練をしてゆくうちに早く正しくやれるようになります。はじめは発言が少ないこともありますが，自由な雰囲気で仲間意識がたかまるとワイガイガヤガヤとはずんできます。

(4) トレーナーを養成しよう

先ず指導者自身がKYTの目標や技法を十分に習得した上で，ＪＬや班長，上級生にトレーナー的経験を積ませておくとグループの話し合いが活発になるでしょう。

(5) リーダー用KYTシートも

子どもを直接指導する立場のリーダーが安全確保をするに必要な着眼点をトレーニングするシートも作れるでしょう。

(6) KYTは安全教育の一部

KYTはかなり具体的な安全教育になり得る方法ですが，すべてではありません。子ども自身の日常生活の全般を通して安全能力を養う姿勢が大切です。特に「注意される」「やらせられる」から「注意する」「やろう」といった自主的自発的な行動になるよう，日常的に継続し実践定着させることが重要でしょう。

7．その他の応用例

(1) 大型シートを使う

ポスター大のシートを用意しておき，全員に見せながら，第1ステップ（どんな危険がかくれているか）を手をあげさせて募り，みんなに聞こえるように口答で発表させます。何人かの着眼点が出たところで，第2ステップ（これが危険のポイントだ）をバズセッション方式（臨時に5～6名の小グループ毎に話し合い，グループとしての意見をまとめて発表する）で進め，全グループの発表によって，重点項目がはっきりします。

次に再びバズ方式をとり第4ステップ（私たちはこうする）に進みます。この場合はスローガン化までしなくてもよいでしょう。

各グループに具体的な対策の発表をさせてから，リーダーが強調点をまとめるとよいでしょう。子どもたちが自分で考え発表したことですので，印象が強く納得づくのルール作りが出来るわけです。

行動を起す直前や時間のない時のKYTに有効でしょう。

(2) 時間や状況に応じて使いわけを

始めのうちはオーソドックスに4ステップを時間をかけて講習して下さい。

子どもたちが習熟してきたら，時間を短かくしていくのと，その場の状況や目的，それと所要時間を考えて，第1ステップのみとか，第3ステップまでとかにして，リーダーが重要な点は指示しておくという方法もとれるでしょう。

班会議，班長会の前後に10分間でまとめてみるとか，全員のつどいでは大型シートを利用してとか，機会をとらえて使いわけて活用し，くり返すとよいでしょう。